



# PISA

## IN FOCUS

# 1



education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

## 就学前教育を受けることは、 その後の学校での高い学習成果に結びつくのか？

### ポイント

- 生徒の社会経済的背景の影響を考慮した後でも、就学前教育を受けた15歳の生徒は、受けなかった生徒よりもPISA調査の成績が良い。
- ほとんどの国で、社会経済的背景に恵まれない生徒は恵まれている生徒よりも、就学前教育機関に通った経験を持つ者の割合が少ない。その傾向は、就学前教育が普及していない国において顕著である。
- 成績が良く、平等性の高い国は、生徒の社会経済的背景の違いによる就学前教育機関での教育歴の違いが小さい。
- 就学前教育が個々の生徒にもたらす効果は、それぞれの国でどのように就学前教育が提供されているかによって異なる。

### 就学前教育の効果は 明らかであり、 ほとんど例外がない。

基本的に、就学前教育は生徒に良い効果がある。PISA2009年調査の結果、ほとんどのOECD加盟国で、就学前教育機関に通ったことのある15歳の生徒は、通わなかった生徒よりも成績が高かった。具体的には、1年より長く就学前教育を受けた生徒はまったく受けなかった生徒よりも、読解力得点で平均54点上回っていた。これは1学年分(39点)以上の差である。確かに、社会経済的背景に恵まれた生徒のほうが就学前教育を受ける割合が高い傾向があるが、社会経済的背景が同じ様な生徒間で比較した場合でも結果は変わらない。生徒の社会経済的背景の影響を考慮しても、就学前教育を受けた生徒は受けない生徒よりも平均33点、得点が高かった。

ベルギー、フランス、イスラエルでは、1年より長く就学前教育機関に通ったことがあると回答した生徒は、通わなかった生徒よりも、読解力得点で100点以上高かった。対照的にエストニア、フィンランド、韓国、アメリカでは、社会経済的背景が同じ様な生徒間で比較した場合、就学前教育機関での教育歴とその後の成績との間にはほとんど関係がなかった。

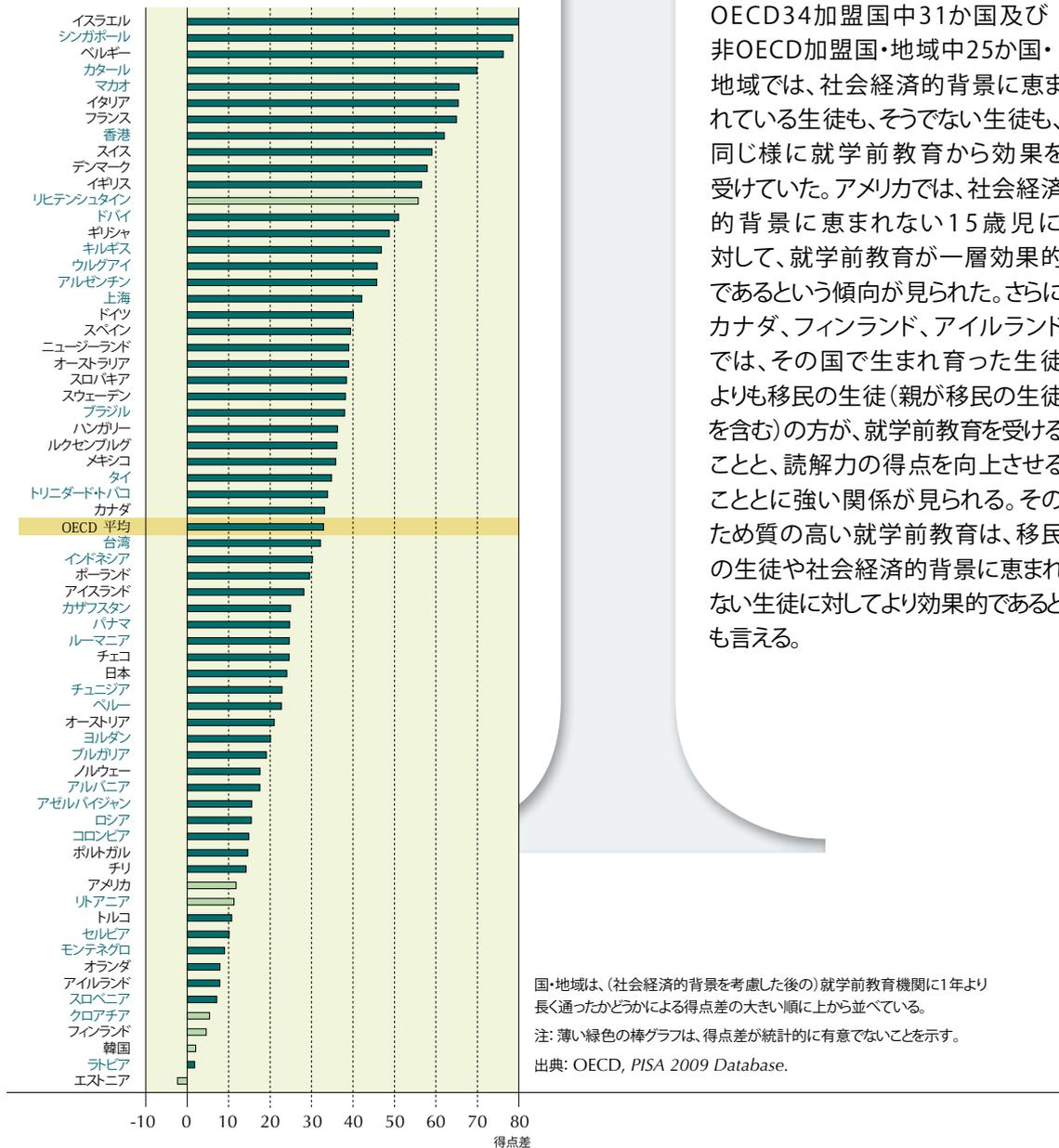


# PISA

IN FOCUS

## 就学前教育の効果

就学前教育機関に1年より長く通ったことがあるかどうかによる  
(社会経済的背景を考慮した後の)読解力の得点差



OECD34加盟国中31か国及び非OECD加盟国・地域中25か国・地域では、社会経済的背景に恵まれている生徒も、そうでない生徒も、同じ様に就学前教育から効果を受けていた。アメリカでは、社会経済的背景に恵まれない15歳児に対して、就学前教育が一層効果的であるという傾向が見られた。さらにカナダ、フィンランド、アイルランドでは、その国で生まれ育った生徒よりも移民の生徒(親が移民の生徒を含む)の方が、就学前教育を受けることと、読解力の得点を向上させることに強い関係が見られる。そのため質の高い就学前教育は、移民の生徒や社会経済的背景に恵まれない生徒に対してより効果的であるとも言える。

### 就学前教育は多くのOECD加盟国で普及している…

PISA2009年調査の結果では、OECD平均で、PISA調査に参加した15歳児の72%が1年より長く就学前教育機関に通ったことがあると回答している。ベルギー、フランス、ハンガリー、アイスランド、日本、オランダでは90%以上の生徒が就学前教育機関に1年より長く通ったことがあると回答しており、就学前教育はほとんどすべての子どもが受けている。実際、OECD加盟27か国で、生徒の90%以上が就学前教育機関に通ったことがあると回答している。



しかしながら、トルコでは就学前教育が普及しておらず、少なくとも1年間通ったことがあると回答した15歳児は30%未満であった。また、カナダ、チリ、アイルランド、ポーランドでは、就学前教育機関に1年より長く通ったことのある生徒が50%未満であった。

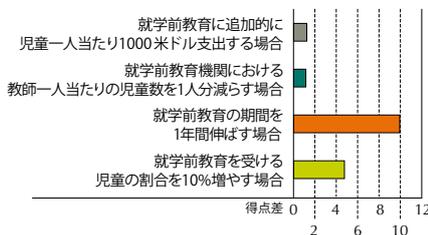
## 就学前教育

ここでの就学前教育とは、就学前学校、幼稚園、デイケアセンターなどで組織的に行われる継続的な活動で、子どもの学習活動や情緒的、社会的発達育成を行うものすべての形態を含む。このようなプログラムは、一般的に3歳から提供される。

…しかし、OECD加盟国では、就学前教育を受けた生徒は、受けていない生徒比べて、社会経済的背景に恵まれた層である傾向がある。

就学前教育機関に通う割合が低い理由としては、保護者にとって保育費が高いという国もあれば（アイルランド）、保育に対する補助が制限されていること（ポルトガル）、対象年齢の移民の子は、就学が義務づけられていない限りあまり公的サービスを利用しないこと（ベルギー、オランダ）などがあげられる。

以下のような学校制度における、就学前教育機関での教育歴に関連した平均得点の差



PISA調査の結果によれば、良い成績をあげ、すべての生徒に平等な学習機会を与えている国・地域では、就学前教育が広く利用されている。例えば、日本、韓国、エストニア、アイスランド、香港では、就学前教育を受けた生徒と受けなかった生徒との社会経済的背景における格差がOECD平均よりも小さい。成績と平等性がOECD平均を下回る国・地域の中で、就学前教育機関への就学が平均を上回っているのはブルガリアのみである。

就学前教育での教育歴と15歳時の学習成果がどの程度関連するかは、就学前教育がどのように提供されるかによって異なる。

PISA2009年調査では、就学前教育機関に通う児童の割合が高く、その期間が長く、就学前教育機関における教師一人当たりの児童数が少なく、児童一人当たりの就学前教育費が高い国・地域において、就学前教育を受けることと15歳時の成績が良好であることに最も強い関係が見られた。

	アメリカ (データがあるOECD加盟国中の値と順位)	
就学前教育を受ける平均年数	1.8年	18 (32)
就学前教育機関における教師一人当たり児童数	14名	15 (28)
就学前教育機関児童一人当たりの公的支出 (購買力平価)	9 394 米ドル	1 (29)
(社会経済的背景の影響を考慮した後の) 就学前教育機関に1年より長く通ったことがあると回答した生徒と通わなかった生徒との読解力の得点差	12点*	27 (34)
社会経済的背景に恵まれた生徒とそうでない生徒の就学前教育への就学の割合とその差	82/59% (23 pp.)	5 (34)

\* 統計的に有意でない



# PISA

IN FOCUS

では、より多くの児童が就学前教育を受けやすい環境であれば、その国全体の成績も良くなるのだろうか。PISA調査の結果では、OECD加盟国の平均得点と就学前教育を受けた生徒の割合との間に、何の関係も見られなかったが、PISA2009年調査に参加したすべての国・地域について見た場合、就学前教育を受けた生徒の割合とその国の成績との間には正の関係があることがわかった。これはその国の国民所得を考慮した場合でも当てはまる。例えば、就学前教育を受けた生徒の割合が10ポイント高い国・地域は、PISA調査の読解力の得点が平均して12点高い。

	フランス	
	(データがあるOECD加盟国中の)値と順位	
就学前教育を受ける平均年数	3.0年	1 (32)
就学前教育機関における教師一人当たり児童数	19名	26 (28)
就学前教育機関児童1人当たりの公的支出(購買力平価)	5 527 米ドル	14 (28)
(社会経済的背景の影響を考慮した後での)就学前教育機関に1年より長く通ったことがあると回答した生徒と通わなかった生徒との読解力の得点差	65点	4 (34)
社会経済的背景に恵まれた生徒とそうでない生徒の就学前教育への就学の割合とその差	96/89% (7 pp.)	25 (34)

様々な研究によって、早期幼児教育は子どもの福祉を改善し、生涯学習の基礎ともなり、貧困を減らし、世代間の社会階層間の移動を容易にすることがわかっている。PISA調査の結果から、就学前教育の質の向上を図る政策を実施している国では、特に、就学前教育を受けることと15歳時での読解力の成績との間に強い関係があることが示唆されている。このエビデンスに基づいて、OECDはオンライン・ツールボックスを開発し、早期幼児教育と保育の質の改善を図る政策の企画立案及び実施を支援している。

**結論：包括的な就学前教育の提供は、その質を維持できれば、生徒の社会的経済的格差による影響を減らし、生徒全体の成績と平等性を改善することができる。**

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Miyako Ikeda ([Miyako.Ikeda@oecd.org](mailto:Miyako.Ikeda@oecd.org)) または Pablo Zoido ([Pablo.Zoido@oecd.org](mailto:Pablo.Zoido@oecd.org))

出典: *PISA 2009 Results, Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes (Volume II)* 及び *PISA 2009 Results, What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices (Volume IV)*.

参考サイト:

[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

[www.oecd.org/edu/earlychildhood](http://www.oecd.org/edu/earlychildhood)

[www.oecd.org/edu/earlychildhood/quality](http://www.oecd.org/edu/earlychildhood/quality)

[www.oecd.org/els/social/family/database](http://www.oecd.org/els/social/family/database)

次回テーマ:

「成績の改善:下位層の底上げ」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。